

鎌倉極楽寺・浜田頓坊 - 甘辛都々逸ほのぼのラビ - 183

《夏の花火は平和の贈物・ドゥカーン》

◇江戸時代 火薬余って 花火にシフト

「玉屋」「鍵屋」と 打ち上げた

◇原料の 黒色火薬は 硝石・硫黄 木炭粉末

あれば吉

◇それにいろいろ 金属等の 粉を加えて

花火ドゥン

◇	原爆を	もつと平和な	世界のために						
	使えぬものかと	見る花火							
◇	あのリルケ	悩み決断	しなけり	ならぬ					
	時にふらつと	思い出す							
	《「触媒」	生きた触媒的	人間の果す役》						
◇	面白い	生きた触媒	その人いると						
	会議活発	よい結果							
◇	それ自身	化学変化は	起るとはせずに						

促進・抑制 する作用

◇ 触媒の ような人だな 時々あつと

驚く人物 いるよねえ

◇ 「絵金」展 弘瀬金蔵 赤岡・高知

七月南催 江戸の絵師

◇ 夏の宵 絵金祭りには 激しい赤が

赤岡町内 盛り上げる

◇ 芥川(賞) 全部一度に(や) 読めたいけれど

何を言いたい 時の声

①②